

MAP 2 衆生救済の願いが埋まる
念仏塚

塚の伝承では未曾有の飢饉、天災、疫病等により、餓え苦しみ、世を嘆く人々を救うため、苦惱を一身に背負い、木食行・断食行をして、最後に己の身と引き換えに衆生救済を願いながら土中に入定、念仏往生された比丘（僧侶）の塚と伝えられます。塚上の石塔には「単嘗宗心比丘 靈位」「寛政四年壬子」（1792）と刻まれています。



▲念仏塚

MAP 3 村人の信仰厚き社と石塔
足立神社

かつては高埴明神社と呼ばれ、中世の高埴氏にまつわる古社です。境内に立つお百度石は、願い事を一心に祈り、本殿と百往復する基点の標です。力石は、重い石をご神前で持ち上げることで吉凶を占い、力自慢を競い、鎮守様や守護仏様に見てもらふこと（奉納）の証です。

静寂の漂う社からは、長い歴史と信仰の厚さが伝わってきます。



▲足立神社

▼力石



MAP 4 微笑む観音、にらみの不動
も御座す
正福寺



▲正福寺

門前や墓域に散在する板石塔婆に、当寺の古刹を偲ぶことができます。本尊は正（聖）観音菩薩。鐘楼前には、六界を輪廻する人の魂を救うとされる六地藏を石塔に彫った供養塔があります。

MAP 5 世界かんがい施設遺産
見沼代用水と斜面林

見沼代用水は享保13年（1728）に井沢弥惣兵衛の指揮により見沼溜に代わる用水として引かれたもので、ここは西縁といひます。見沼は干拓により1200町歩の新田が造成されました。

浦和西高等学校北側の斜面林には貴重な在来の植物やムクノキ、エノキなどの樹木が豊富に残されています。

遊歩道周辺は、春には見事な桜並木、夏にはヤブカンゾウ、秋にはヒガンバナなど四季折々の風景が楽しめます。



▲斜面林



▲カンゾウ（6月頃開花）

上木崎界限 から見沼 を歩く

約
6.1
km

JR与野駅を起点に上木崎界限を散策します。

見沼代用水沿いの豊かな自然や中山道、

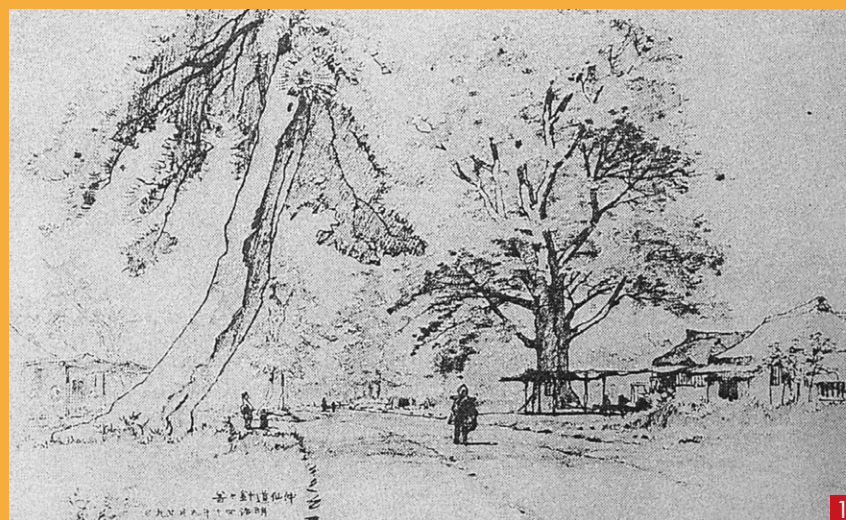
赤山街道にまつわる史跡・寺社などを探訪します。

古の見沼にまつわる水と

人馬の往来を語り継ぐコースです。

初版発行日…平成20年（2008）3月

編集・発行…浦和区文化の小径づくり推進委員会



1 福原霞外スケッチ（与野駅先）



2 ヒガンバナ



3 与野駅西口 与野駅記念碑

浦和区文化の小径づくり推進委員による
ガイドと浦和の風景が楽しめます！

※YouTubeにリンクします。

※通信料は自己負担となります。

MAP 6 見沼を臨む北条氏の古刹
正樹院

厳かな境内に立つと、見沼の斜面林を背に、いぶし銀の翼を広げたような薨の本堂があります。本尊は48の願いを成就し、悟りを開いた極楽浄土の教主とされる阿弥陀如来。ここは大永元年（1521）、細谷三河守の開基と伝えられる古刹です。徳川家光以降歴代将軍から寺領14石が認められていました。



▲正樹院

MAP 7 幕末の中山道に伝わる大事件
一本杉の仇討ちの碑

文久4年（1864）、水戸藩士宮本鹿太郎が3人の後見人と共に、「万延元年下総国津の宮沖の船中で口論のすえ、命を落とした父佐一郎の仇」を、この地で討った事件です。

仇の讃岐丸亀藩浪人河西祐之助は、総願寺住職を伴い、仏門に入るため江戸へ向かう途中、一本杉で討たれました。

当時の大杉は、樹高約18m、周囲約3mと伝えられ、河西祐之助の墓は、北浦和の廓信寺境内にまつられています。

▼杉と碑



MAP 1 中山道と六国見

中山道は、東海道・日光道中・甲州道中・奥州道中の五街道の1つ。赤山街道が交差する脇には、関東六国の山々が見渡せる「六国見」の立場茶屋があり、旅人が一休みする名所でもありました。

MAP A 赤山街道

赤山街道は伊奈忠治が築いた赤山陣屋（川口市赤山）に向かう道筋の総称で、複数の道がありました。また中山道針ヶ谷境から赤山街道を通り千住大橋を渡り江戸へ向かう横往還でもあり、武士や庶民の行きかう道でした。

現在、上木崎大けやき公園南側の道は赤山通りと呼ばれ、地域の方の「生活のみち」として親しまれています。



▲赤山通り

風情連なる桜並木

市川橋から木崎橋に臨む見沼代用水西縁は、春には桜の名所としても知られています。訪れる人は春の陽だまりの中、連なる桜の美しさに魅了されます。



▲見沼代用水西縁の桜並木